

「鹿島小学校の鹿島太鼓伝承活動の取組」

1 学校名 薩摩川内市立鹿島小学校

2 学年・人数 1年生2人，2年生3人，3年生1人，
4年生5人，5年生6人，6年生2人（計19人）

3 日時・場所

(1) 練習の日時・場所

令和4年10月～11月 ふるさと・コミュニケーション科
(全10回) (鹿島地域コミュニティセンター)
令和4年11月14日(月) 鹿島小・幼 学習発表会リハーサル
(鹿島地域コミュニティセンター)

(2) 発表の日時・場所

令和4年11月15日(火) 鹿島小・幼 学習発表会
(鹿島地域コミュニティセンター)

4 伝承・活用に取り組んでいる郷土芸能について

(1) 名称

鹿島太鼓（かしまだいこ）

(2) 由来

昭和55年に、鹿島村郷土芸能保存会が組織され、昭和56年に、自治宝くじの助成金を使って太鼓を購入した。昭和57年から新しい郷土芸能として、荒波に雄々しく立ち向かう漁民の姿を太鼓の音に表現した「鹿島太鼓」の創作を行い、地区コミュニティ婦人部を中心に継承してきた。

その後、鹿島中生徒が練習し、文化祭等で披露してきたが、平成25年度から休校になったため、小学生が、小・幼・地域合同文化祭で披露してきた。平成30年度からは、中学生が海星中文化祭でも披露するようになった。令和2年度から、小・幼学習発表会として実施し、保護者・地域へ披露している。

(3) 構成等

大太鼓，中太鼓，締太鼓で編成している。参加人数によって竹太鼓等でアレンジすることがある。

5 保存会や地域との連携の具体

学校の教育活動としては、「ふるさと・コミュニケーション科」の中で練習を位置付け、地域の保存会の橋野恵子氏に指導していただいている。学習発表会までに10時間の練習を行っている。

太鼓はすべて保存会からお借りしている。バチは平成26年度に学校で児童用を購入し、その後、毎年、破損や児童数増加による不足分を購入している。

6 文化財伝承・活用の取組の工夫した点

学校と地域が協力しながら、地域の伝統文化を継承していくための重要な活動と位置付けて取り組んでいる。例年どおりだと、お盆に行われる港まつりや大晦日に地域保存会が演奏を行う。帰省した高校生や大人も入って演奏することもあり、子供たちの憧れや意欲を高める機会となっている。また、本校は留学制度による転入児童があることから、毎年、鹿島太鼓に初めて触れる児童も多く、技術習得の困難さはあるが、鹿島の伝統文化を知り、学び、体験できるよい機会と捉え、練習に取り組むようにしている。

7 取組の様子（練習状況、発表の場等）



練習風景①



練習風景②



練習風景③



令和4年度学習発表会での発表

8 参加児童生徒・保護者・保存会・教員等の感想・意見

【4年生児】

学級で手本の動画を見て、リズムや叩き方を覚え、公民館でみんなと一緒に合わせたときに「ズドン！」と太鼓の音の後に静かになった。その時、鳥肌がたった。叩く前に息を吸って合わせることや動きを揃えることを練習して、どんどん勢いのある演奏になり、学習発表会ではたくさんの拍手をいただいた。本番は、いつもより速くなったけど楽しかった。来年は、中心で大太鼓を叩きたい。

【教職員】

学年ごとに担当する太鼓が違い、高学年になると花形の大太鼓が任される。学年や経験を重ねると責任が積み重なり、子供たちの中でも自然に上の学年に憧れることができる縦割り活動である。太鼓保存会の講師をお呼びし、教員が共に学び合う貴重な時間を過ごすことができるのも、この学習の魅力である。伝統芸能を通して地域の風土や歴史を感じることができる鹿島太鼓を、今後も学習に取り入れていきたい。